編 修 趣 意 書
(教育基本法との対照表)

受理番号	学　校	教　科	種　目	学　年
104-169	小学校	国語科	書　写	第 5 学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教　科　書　名		
17 教出	書写 507	小学 書写 五年		

1. 編修の基本方針

学びのチカラで 人と社会を 未来へつなぐ

自ら問い、考え続け、
社会を創っていく子どもたちを育てたい。
そのような思いをこめて、
私たちはこの教科書をつくりました。

課題解決に向けて
「考える力」「書いて伝え合う力」を育みます。

文字を整えて書く原理・原則を理解し、
自分のめあてと向き合って書く過程をとおして、
子どもたちは「学び方」を身につけます。
よりよく伝えるための書き表し方を考え、
工夫する過程をとおして、子どもたちは「伝え方」を身につけます。
本書は教育基本法に示された目標の実現に向けて、「学び方」と「伝え方」を軸に、
生涯にわたって豊かな文字の使い手となるような教材を選定・構成しています。

特色 1
「書く力」が身につく
—すべての学びを支える—

よい姿勢と持ち方、運筆のしかたを身につけると、長い時間書いていても疲れません。よい学習習慣が身につくことで、各教科の学びを支えます。

特色 2
「学び方」がわかる
—自ら学びたくなる—

文字を書く原理・原則を見つける力が、他の課題に出会ったときに、解決法を見つける力になります。
自ら見つけた「わかった！」が学ぶ意欲につながります。

特色 3
「書き方のこつ」「伝え合う楽しさ」を知る
—日常生活で使いたくなる—

子どもの日常における「書く場面」を徹底的に取材し教材化しました。
「書き方のこつ」を使ってみたい意欲、伝え合う楽しさを実感した体験が、生涯にわたり「書きたい子ども」を育てます。

特色1 「書く力」が身につく ―すべての学びを支える―

●いつもよい姿勢で学習しよう！

パソコンやタブレットを使うときも、書写で身につけた「よいしせい」を想起することで、子どもの健康を守ります。

▲p.6

●毛筆用具の置き方は、繰り返し掲載

毛筆用具の置き方は3年生以上の全学年に掲載することで、いつでも確認でき、定着を図れます。

▼p.8

使ったあとは硯を反故紙で拭くなど、**環境にも配慮**しています。

●穂先の動きが明快で、筆使いがわかる

穂先の通り道を朱墨で明快に示した図版は、高学年の指導事項である「穂先の動きと点画のつながりを意識して書く」ことを習得するのに活用できます。**ほぼ全ての教材において、この朱墨と薄墨を使った図版を掲載**しています。筆使いに重点をおく教材では、丁寧に扱っています。

▲p.28–29

特色2 「学び方」がわかる ―自ら学びたくなる―

●「練習用紙の作り方」で主体的に学習する

自分の課題に合った練習用紙を作成する方法を掲載することで、具体的な方法を知ることができます。

▼p.8

●対話的な学びを支援

「書く速さ」について話し合うには、どんな観点でを伝え合うのかイメージできるように、**話し合いのヒントや場面を例示**しています。

▼p.19

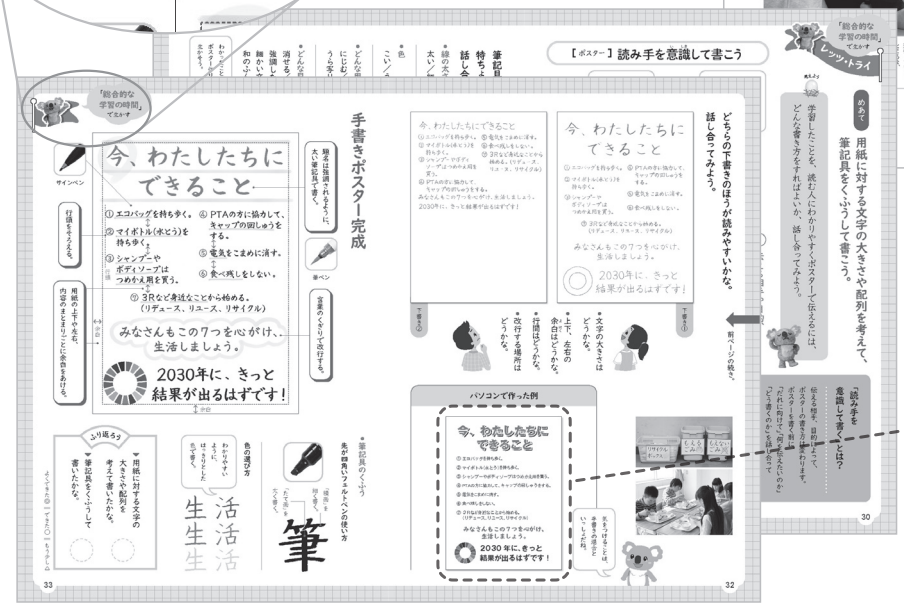
特色3 「書き方のこつ」「伝え合う楽しさ」を知る ―日常生活で使いたくなる―

●言語活動で生きる「活用力」＝「レッツ・トライ」

身につけた書写の力が、学校生活や学習活動の「どの場面で」生かせるのかが、すぐにわかるように構成されています。

▼p.①−1

教科関連などを示すコアラの旗マーク



▲p.30−33

SDGsで学習したことをポスターにまとめる活動では、**パソコンで作成した場合でも書写で学習したまとめ方を生かせる**ことが作例によって理解できます。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点	該当箇所
1　はじめの学習	●運筆しやすい姿勢・執筆法が定着するよう、よい筆記具の持ち方と姿勢を丁寧に解説し、児童の健康に配慮しました。〈第１号〉	p.6–7
2　文字の組み立て方（中と外） 3　文字の組み立て方（中と外）と、穂先の動き 4　筆順と字形 5　文字の大きさ（漢字どうし） 6　文字の大きさ（漢字と平仮名） 7　穂先の動きと、線のつながり 8　用紙に対する文字の大きさと配列 9　学習のまとめ 書きぞめ	●基礎・基本となる書写の知識・技能を習得することで、幅広い知識と教養になるように配慮しました。〈第１号〉 ●確かな書く力を養うことにより、主体的に社会の形成者として寄与する態度を養えるように配慮しました。〈第３号〉 ●穂先の通り道が理解しやすい朱墨の図版を提示することで、適切に運筆する能力を高めるように配慮しました。〈第１号〉 ●教材の児童名、キャラクターの男女比に配慮しました。〈第３号〉 ●教材の言葉、文章として、生命を尊ぶ心の育成や、自然 , 環境を意識できるように配慮しました。〈第４号〉 ●書くことで日本語の美しさを体感でき、心が豊かになるような教材語句や文章を選定しました。〈第１号、５号〉	p.5 など 全般 p.28–29 など 全般 全般 p.44–48
学習の進め方	●めあてを確かめて、その結果を評価する活動を継続することで、自主及び自律の精神を養うようにしました。〈第２号〉	p.4
書きぞめ 【レッツ・トライ】 『竹取物語』を書く 【知りたい 文字の世界】 平仮名のもとになる漢字 8　用紙に対する文字の大きさと配列 【書いて 伝え合おう】 年賀状、絵はがきを書こう	●書き初めの言葉として、『初春』『世界の国』を書くことによって、日本の伝統と文化への関心が高まるようにしました。〈第５号〉 ●古典を書く活動をとおして、日本の伝統と文化を体感できるようにしました。〈第５号〉 ●平仮名の成り立ちを知ることによって、我が国の文化を尊重できるように配慮しました。〈第５号〉 ●年賀状や絵はがきを書く活動をとおして、日本の伝統と文化を体感できるようにしました。〈第５号〉	p.44–48 p.15 p.26 p.34–37
学習の進め方 【レッツ・トライ】 読み手を意識して書こう 8　用紙に対する文字の大きさと配列 【書いて 伝え合おう】 年賀状、絵はがきを書こう 【知っておこう】 工場見学のお礼の手紙 【レッツ・トライ】 工場見学のメモ	●グループや個人で課題解決を行うことをとおして、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うように配慮しました。〈第２号〉 ●はがきや手紙の書き方を習得することで、幅広い知識と教養を身につけることができるように配慮しました。〈第１号〉 ●礼状を書く活動によって、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うようにしました。〈第３号〉 ●学習した内容を、他教科や学校生活に生かしていく力を身につけるよう配慮しました。〈第２号〉	p.30–33 p.34–37 p.42–43 p.19–21、30–33

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

子どもの文字環境や文字文化を豊かにする

「活字について知ろう」では、手書き文字と活字を比較することで、違いや使い分けについて考える構成になっています。(p.11)

毛筆教材として学習する「あ」「こ」「か」「れ」の字源を知ることで、文字文化と関連させながら学習できます。(p.26)

書き初め教材として「初春」「世界の国」を掲載。日本の伝統文化への関心を高められるようにしました。(p.44–48)

全ての児童にとっての学びやすさに配慮

● カラーユニバーサルデザイン

色覚等の特性をふまえた、判読しやすい配色やレイアウトを工夫しています。(p.14など全般)

● ユニバーサルデザインフォント

書写的な観点から見て、手書き文字と近い形で学習できるユニバーサルデザインフォントを使用しています。(全般)

● 人権上の配慮

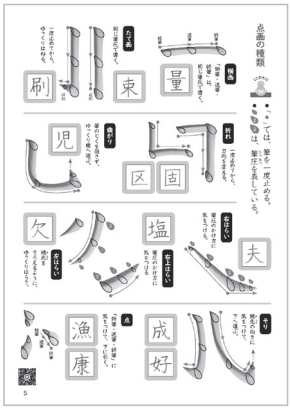
社会の多様性を踏まえ、イラストや図版を含め教科書内の表現に配慮しています。(全般)

● 特別支援教育、日本語指導を必要とする児童等への配慮

基本点画の名称と書き方を確認できるページが設けられています。(p.5)

● 左利きの児童への配慮

左利きで書く場合の毛筆用具の置き方を、二次元コードと連動した資料で確認することで、個別最適な学びに配慮しています。(p.6)



▲p.5

ハイブリッドな書写学習

● つながる、広がる、「まなびリンク」

教科書教材がまなびリンク(二次元コード)と連動しています。すべての毛筆教材について、運筆動画を見ることができます。(p.9、p.12など)

● タブレットPC等の活用

発達段階に応じて、タブレットPC等を効果的に活用できる学習活動を設定しています。

● デジタル教科書・教材の発行

教科書と同内容の学習者用デジタル教科書や、動画や資料を追加した学習者用デジタル資料集・指導者用デジタル教科書を発行します。

今日的な教育課題への対応

● ESD・SDGsへの取り組み

現代社会が抱える環境や貧困、人権や平和などのさまざまな問題について、子どもたち一人一人が自ら課題を発見し、思考し、持続可能な社会の形成に積極的に関わっていくことができるよう、専門家による校閲を受け、ESD・SDGsに取り組めるように工夫しました。

● カリキュラム・マネジメントへの対応

日常生活や学習活動における「生きてはたらく書写力」が育成できるように、「レッツ・トライ」や「書いて 伝え合おう」などのコーナーを設け、教科横断的に活用できる構成になっています。(p.18、p.28、p.47など)
「目次」で、他教科や日常生活で生かせる書式がビジュアルに一覧できます。(p.3)

学年間の円滑な接続

前学年で学習した漢字や、平仮名の一覧表を掲載することで、既習事項を振り返ることができます。(p.49–53)

編 修 趣 意 書
（学習指導要領との対照表、配当授業時数表）

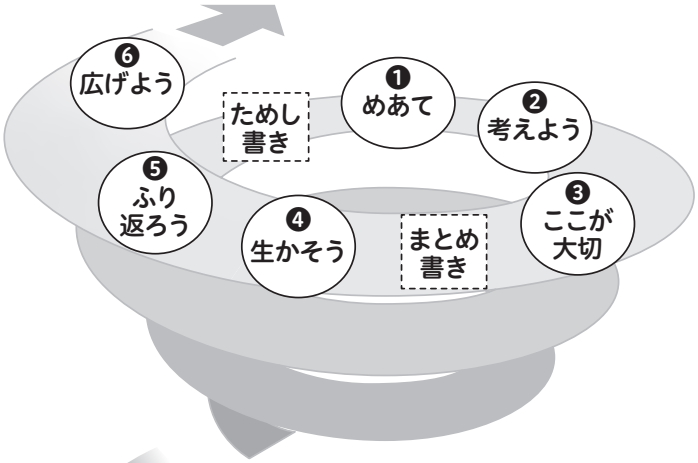
受理番号	学　校	教　科	種　目	学　年
104－169	小学校	国語科	書　写	第５学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教　科　書　名		
17 教出	書写 507	小学　書写　五年		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

特色1 「書く力」が身につく ―すべての学びを支える―

学習過程がわかる紙面構成

「めあて」→「文字を書く原理・原則の理解」→「言葉を書いて応用を図る」→「振り返る」までの流れがわかりやすい紙面構成です。

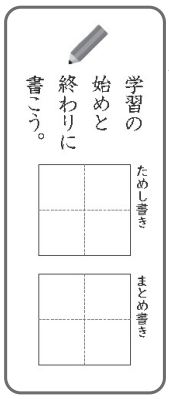


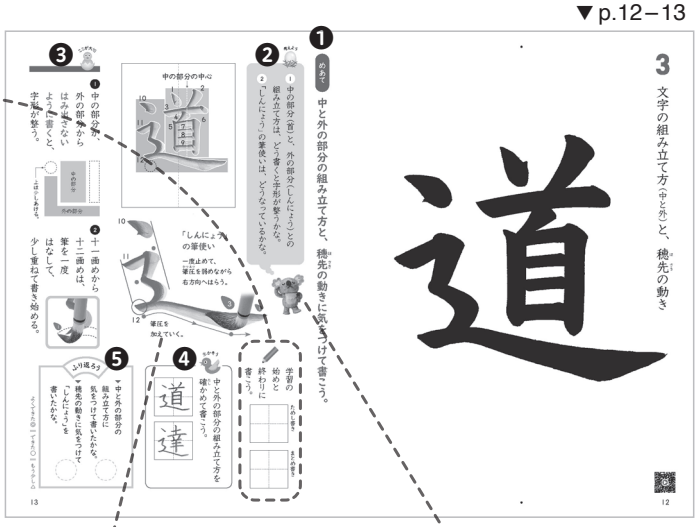
自らの成長に気づく「ためし書き」と「まとめ書き」

授業のはじめに「ためし書き」で、自分の課題に気づきます。授業の終わりに「まとめ書き」をして「ためし書き」と比べて振り返ることで、**1時間の授業のなかで自らの成長に気づくことができます。**

学習の流れがわかりやすい!!

▼p.12－13





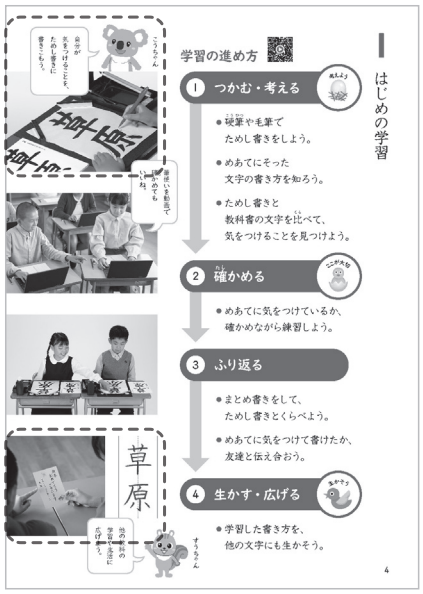
朱墨の図版で、穂先の通り道が視覚的に理解できます。

コアラのこうちゃんが、文字を書くときに考える観点を投げかけます。

特色2 「学び方」がわかる ―自ら学びたくなる―

学習の手順がわかる

2年生以上の全学年に「学習の進め方」を収録。子どもの書字例や活動写真を示すことで、自分で課題を解決していくための具体的な方法がわかり、意欲的・主体的に学習できます。

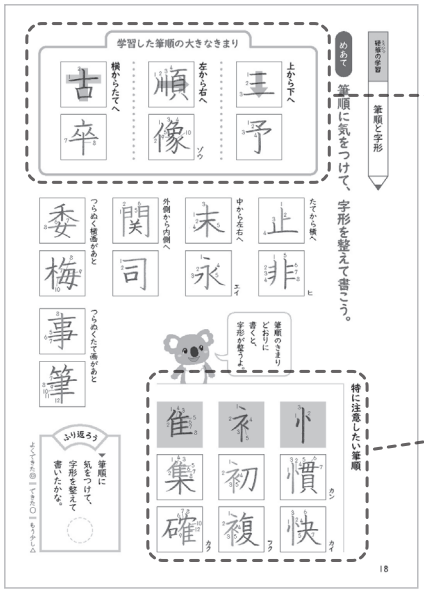


◀ p.4

「主体的、対話的で深い学び」につながる学習活動

「知識・理解」「思考・判断」「活用」「対話的な学び」を支える学習材料を豊富に掲載しています。

▼ p.18



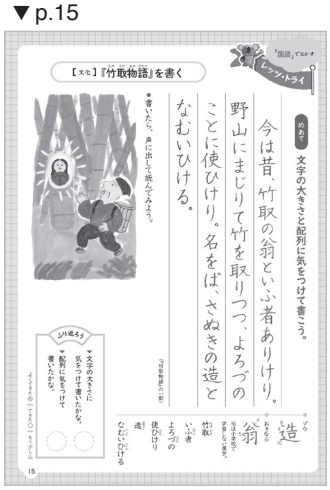
既習事項となる原則をふまえて、当該学年の学習を積み重ねることができます。

国語の漢字学習との連携として、書写学習の観点から、筆順のきまりや、誤りやすい筆順の漢字などを扱っています。

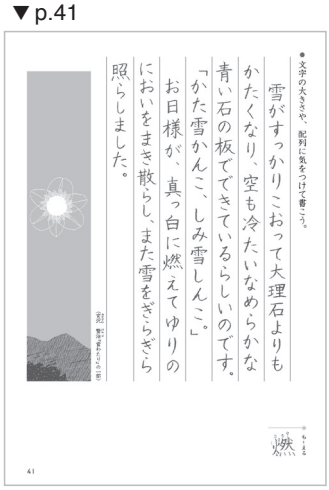
国語力の基礎を養う

国語で学習した教材を書写で視写することで、内容をより深く味わうとともに、豊かな言語感覚を養います。

▼ p.15



▼ p.41



特色3 「書き方のこつ」「伝え合う楽しさ」を知る ―日常生活で使いたくなる―

相手意識・目的意識の大切さを知る「書いて伝え合おう」

学習の最終的なゴールは、目的を考えて書く力を育てること。
巻末には、これまでの書写力を総合的に生かせるような活動を設定しています。

▼p.34–35

▲p.36–37

本教材で学習したことが
次ページで、日常化に
つながります。

学年間の確かな系統性 ――硬筆教材一覧表

書写で身につけた力を、どの学習場面でも発揮できるように、
各学年の学習活動に即した教材を系統的に構成しています。

学年	カード・はがき	手 紙	ノート・原稿用紙（ます目）	罫線など	学習成果物・学級活動	メ モ
1年	ありがとうカード（生活）		お正月のできごと（国語） 横書きの書き方（算数）	かんさつカード（生活） 絵日記（国語）		
2年	年賀状（日常）	ありがとうパーティーの招待状（生活）	お正月のできごと（国語） 横書きの書き方（算数）	時間割（特活） 本の紹介カード（国語）		
3年	暑中見舞いのはがき（日常）	お店見学の礼状（社会、国語）	セーフティ教室の作文（国語）	作品カード（図画工作） 横書きの書き方（国語、理科）	スーパーマーケットの工夫（社会、国語）	スーパーマーケットでの見学メモ（社会、国語）
4年	敬老の日のはがき（国語、社会、日常）	学習発表会の案内状（国語、特活）	理科のノート（理科）	横書きの書き方（国語、理科）	家から出るごみの種類と量（社会） 学級新聞（特活）	ダム見学での聞き取りメモ（社会）
5年	年賀状（日常、英語） 寒中見舞いのはがき（日常） 絵はがき（日常）	工場見学の礼状（社会、特活） 転任される先生への礼状（特活）			SDGsのポスター（特活）	工場見学メモ（社会）
6年	年賀状（日常）	卒業文集執筆の依頼状（特活） 「卒業を祝う会」の案内状（特活）		国語のノート（国語）	校外学習のリーフレット（特活） 卒業制作（特活）	話し合いメモ（特活）

検討の観点と内容の特色

検討の観点	内容の特色
1　教育基本法・学習指導要領への対応	
① 教育基本法	● 基礎・基本となる書写の知識・技能を習得することで、幅広い知識と教養を身につけることができるよう配慮しました。 ● めあてを確かめて、その結果を評価する活動を継続することで、自主及び自律の精神を養うようにしました。
② 学習指導要領	● 書写学習をとおして「社会に開かれた教育課程」を実現するために、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養を柱として、主体的に学習に取り組み、課題解決を図れるよう編集しています。
2　内容の範囲・分量・程度	
① 教材の範囲・分量	● 各学年の教材は、年間30～35単位時間程度で、限られた時数のなかでも、過不足なく学習効果が得られるよう工夫をしています。
② 硬筆教材の内容と程度	● 児童の発達段階や語彙・言語環境などを考慮して、言葉としても適切で、学習要素が理解しやすい文字や語句を選定しています。
③ 硬筆教材の書風	● 学習指導要領の漢字配当表に示された字体を拠りどころにし、穏健・中正を心がけ、児童にとって書きやすいものとしました。
3　組織・配列	
① 基礎・基本の確実な定着	● 文字の書き方の秩序性を習得するために、姿勢・執筆や運筆方法、字形の整え方などの、基礎・基本が確実に習得できるよう構成されています。（p.4–8など全般）
② カリキュラム・マネジメントへの対応	● 「レッツ・トライ」「書いて 伝え合おう」の教材では、習得した書写力を他教科や日常生活に活用できるように関連を図っています。（p.19–21、30–33、36–37）
③ 国語科国語との関連	● 硬筆教材について、国語で学習した文学教材などから設定し関連を図るとともに、言語としての響きや豊かさを考慮しています。
④ 学年間の円滑な連携	● 前学年で学習した漢字や、平仮名の一覧表を掲載することで、既習事項を振り返ることができます。（p.51–53）
4　特色・工夫	
① 適切に運筆する能力を高める	● よい姿勢を保ち、効率のよい鉛筆や筆の持ち方ができるよう配慮しています。（p.6–7） ● 穂先の通り道を朱墨で明快に示しています。（p.10など全般）
② 主体的に学習に取り組める	● 学習ステップがわかるアイコンを提示することで、子ども自らが学習手順を理解できるようにしました。（p.5など）
③ 多様な文字文化への関心を高める	● 「知りたい 文字の世界」では、平仮名の字源や活字について扱うことで、文字への興味・関心を高めるようにしました。（p.11、26）
④ デジタル機器を活用した学習	● 学習時に参照できる運筆動画等を、ウェブサイトで見られるようにしています。
⑤ SDGsへの対応	● 現代社会が抱える環境や貧困、人権や平和などのさまざまな問題について、子どもたち一人一人が自ら課題を発見し、思考し、持続可能な社会の形成に積極的に関わっていくことができるよう、専門家による校閲を受け、ESD・SDGsに取り組めるように工夫しました。（p.30–33）
5　表記・表現	
① 文章表現・表記・用語	● 文章表現は平易で簡潔であるとともに、運筆方法は伝わるように、具体的な言葉で示されています。
② 書体	● 書写的な観点から見て、手書き文字と近い形で学習できるユニバーサルデザインフォントを使用しています。
③ 紙面デザイン	● 見開きを基本とした見やすく使いやすいレイアウトにしています。
④ カラーユニバーサルデザイン	● 色覚等の特性をふまえた、判読しやすい配色やレイアウトを工夫しています。
⑤ 特別支援教育、日本語指導を必要とする児童等への配慮	● 基本点画の名称と書き方について確認できるページが、全学年に設けられています。（p.5）
⑥ 人権上の配慮	● 社会の多様性を踏まえ、イラストや図版を含め教科書内の表現に配慮しています。
⑦ 左利きの児童への配慮	● 左利きで書く場合の用具の置き方を二次元コードで掲載することで、個別最適な学びに配慮しています。（p.6）
6　印刷・造本	
① 印刷・表紙	● 表紙には、抗菌加工と撥水コーティングを施し、墨や汚れに強い堅牢な造本となっています。 ● 書き文字や、図、写真などの印刷は、鮮明で目にやさしいものとなっています。
② 紙・判型	● 紙の強度を維持しつつ、できるだけ軽量な紙を使用しています。 ● 学習用具が多い教科特性をふまえて、机の場所をとりすぎないB5判サイズにしています。

2. 対照表

図書の構成・内容と学習指導要領の内容との対応を示します。

（ア）用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。
（イ）毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。
（ウ）目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。

図書の構成・内容	学習指導要領の内容			該当箇所	配当時数
	ア	イ	ウ		
書いて 伝えよう	○		○	表紙裏–p.1	2
五年生で学習すること 書写で学習したことを、他の学習や、生活の中で生かそう 目次	○		○	p.2–3	
1　はじめの学習	○	○	○	p.4–8	
2　文字の組み立て方（中と外）	○	○	○	p.9–10	2 ～ 3
知りたい 文字の世界「『活字』について知ろう」	○		○	p.11	適 時
3　文字の組み立て方（中と外）と、穂先の動き	○	○	○	p.12–13	3
硬筆の学習　文字の組み立て方（中と外）	○		○	p.14	
レッツ・トライ「『竹取物語』を書く」	○		○	p.15	1
4　筆順と字形	○	○	○	p.16–17	2 ～ 3
硬筆の学習　筆順と字形	○		○	p.18	
レッツ・トライ「工場見学のメモ」	○		○	p.19–21	1
5　文字の大きさ（漢字どうし）	○	○	○	p.22–23	4 ～ 5
6　文字の大きさ（漢字と平仮名）	○	○	○	p.24–25	
知りたい 文字の世界「平仮名のもとになる漢字」	○		○	p.26	適 時
7　穂先の動きと、線のつながり	○	○	○	p.27–29	3
レッツ・トライ「読み手を意識して書こう」	○		○	p.30–33	2
8　用紙に対する文字の大きさと配列	○	○	○	p.34–35	2
書いて 伝え合おう「年賀状、絵はがきを書こう」	○	○	○	p.36–37	適 時
9　学習のまとめ	○	○	○	p.38–41	4 ～ 5
知っておこう「工場見学のお礼の手紙」	○		○	p.42–43	適 時
書きぞめ	○	○	○	p.44–48	4 ～ 5
漢字表 　五年生で学習する漢字 　四年生で学習した漢字	○		○	p.49–52	適 時
平仮名表 世界の「こんにちは」	○		○	p.53	
				計	30 ～ 35